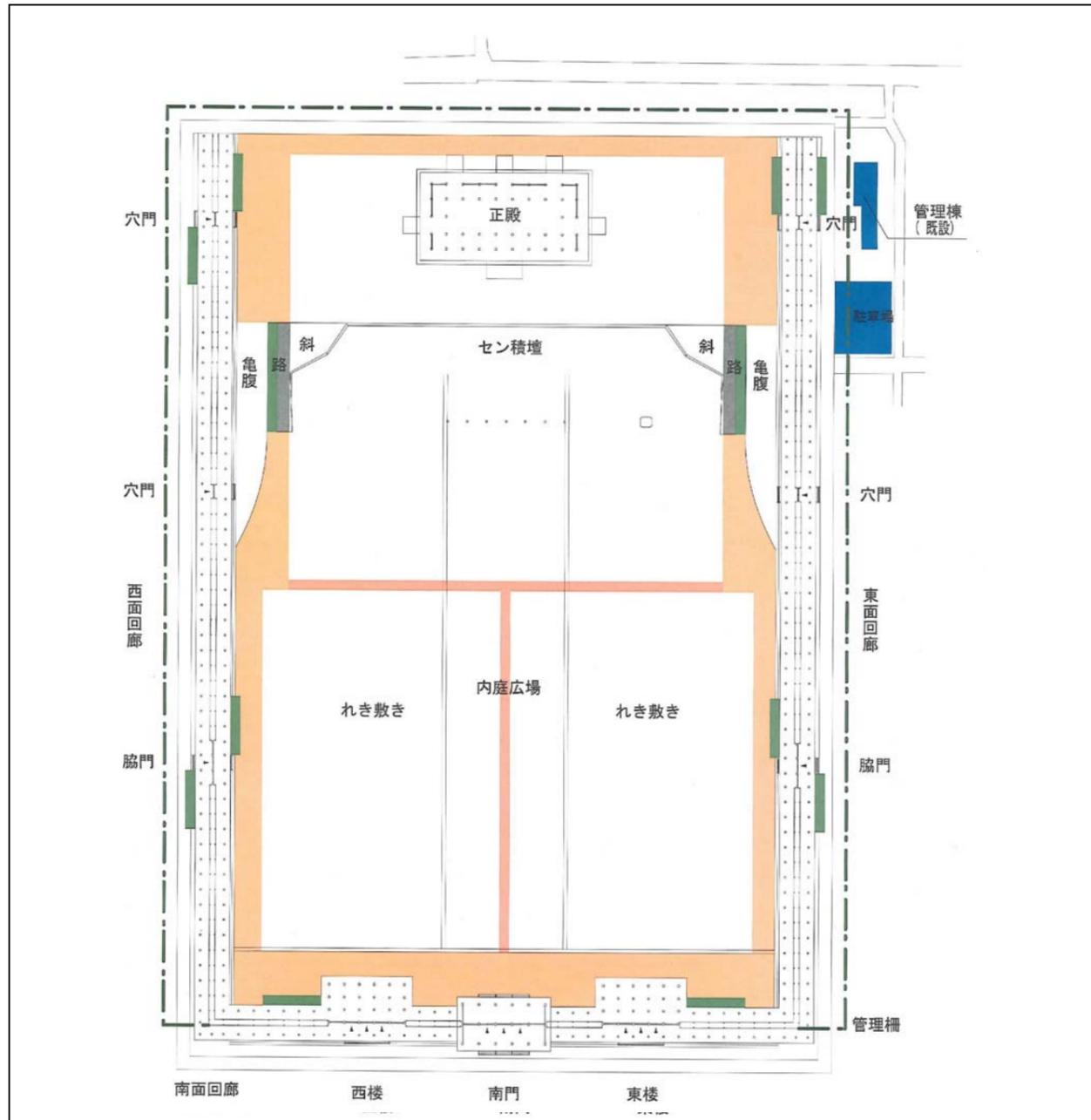


■仮設通路等の設置位置（案）



【凡例】

- 見学者用仮設通路（見学者・車イス）約3m
- 緊急車輛等通路（車輛・車イス）約6m
(れき敷き側には危険察知用の取り外し可能な安全柵を設置)
- 傾斜（勾配1/15）
- 車イス用スロープ
(幅1m50cm、勾配1/12)

■見学者用仮設通路

効果的な院地区の見学に資するため、見学者の通行が可能である取り外し可能な仮設通路を設ける（右図イメージ①②）。歩行者と車イスがすれ違える幅員とする（最低幅1m35cm*）。

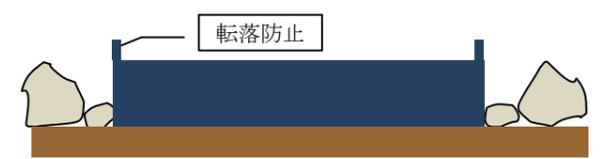
■緊急車輛等通路

緊急車輛および管理用車輛の通行が可能な平滑な通路とする（右図イメージ③）。車輛と車イスがすれ違い可能な幅員とする（車イスが通る通路の有効幅180cm以上*、救急車横幅1m70cm）。
※『都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン』 国土交通省 平成20年1月より

■見学者用仮設通路等の設置イメージ（れき敷き厚約10cm）

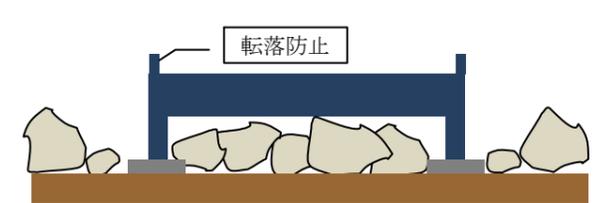
①れき敷きを除いた設置

- ・れき敷きと同じ高さを保てるため安全性が比較的高い。
- ・設置時にれきを除く（撤去時にれきを敷く）必要がある。



②れき敷きの上部への設置

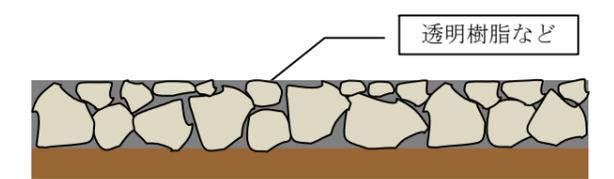
- ・れき敷きを残すので全面れき敷きの状態に戻しやすい。
- ・素材は木材にすると設置が容易になる（角材に板を並べて設置するなど）が、他方、れき敷きが見えなくなるため、透明で耐久性のあるものとするとも検討する。
- ・撤去や再設置が可能な仕様を検討する。



■緊急車輛等通路（周回路）のイメージ（れき敷き厚約10cm）

③平滑舗装の実施

- ・れき敷きと色味を合わせた舗装を検討する。
- ・可能であれば、れき敷きが見える素材とするとも検討する。



【遺跡・遺構上への見学通路の設置事例】



尾瀬



表慶館



れき敷き遺構状況
(454次中層礎敷)

<参考>

社団法人 平城遷都1300年記念事業協会へのヒアリングによる舗装と活用の問題

想定される行為		砂利敷き（現在）	れき敷き（復原）
車椅子（※注1）		△	×
歩行	高齢者	△	×
	健常者	△～○（※注2）	△～×
	管理者	△～○	△～×
搬出入	トラック	○	×
	○大規模イベント 舞台	○	×
搬出入	○小規模イベント 台車、手運び	—	△（台車は×）
	演示	△	×
救急車		○	△（担架） ×（ストレッチャー）

平城遷都1300年祭においては、現行の砂利敷きの内庭でも見学者の行動に制約が見られた。このことから、全面れき敷きとした場合の各種行為に対する制約を再検討した。

※注1：平城遷都1300年祭においては、歩行障害者だけではなく高齢者の利用も多数あった。
※注2：健常者の見学者からも歩きにくいと苦情があった。